

岡山市場を取り巻く物流環境

(第 1 回未来会議・氏原副座長意見に関する調査結果概要)

1. 岡山市場を取り巻く物流動向(関係者ヒアリング要旨)

(1) 岡山・中国エリアを巡る物流動向

- ・【青果】中国では、県域を越えて広域物流を効率化するような動きはまだ見られず、各県域内での効率化に焦点が当てられている。(運送会社)
- ・【青果】関東→岡山の輸送は、関西で中継・転送する方が効率的であるため、直接岡山には荷物が来ない。(運送会社)
- ・【青果】距離が近く運賃が安いこと、帰り荷が確保しづらいことから、九州→中国の輸送が難しく、大阪経由で岡山に転送されるようになってきている。(運送会社)
- ・【青果】東北→関西の輸送も難しくなっており、着荷時間を 1 日延ばすか、名古屋で中継して運んでいる状況である。(運送会社)
- ・【青果】近年は、物流環境の変化を背景に、山陰から岡山市場への荷物が縮小傾向にある。(運送会社)
- ・【花き】遠方(北海道等)の荷物は岡山まで運ばれず、大阪経由で転送されるようになった。岡山から九州・関東向けの荷物についても、一度の運行で輸送できなくなったため、間にハブとなる拠点を作る流れになっている。(運送会社)

(2) 岡山県内産地の物流動向

- ・【水産】東海方面については、名古屋中央卸売市場・本場近くの運送業者拠点を中継拠点として、各市場へ配送されている。また、関東方面については、豊洲市場を中継拠点として、各市場へ配送されている。(水産出荷団体)
- ・【青果】県内の集荷場から卸売市場への出荷を担う人手の確保が課題である。(青果出荷団体)
- ・【青果】東京・大阪方面への出荷に際しては、物量や集荷場との距離に応じて、農協ごとに運送会社を手配する場合と、全農が手配するトラックを利用する場合とがある。(青果出荷団体)

(3) 岡山市場のハブ市場としてのポテンシャル

- ・【花き】既存の物流ルートについて、特に四国向けの輸送を中心に、岡山市場がハブを担うことで効率化できる可能性がある。(運送会社)
- ・【青果】数量は少ないが、現状も九州(熊本)の野菜を高松市中央卸売市場まで運ぶための中継地として活用されている。(運送会社)
- ・【青果】九州等の遠方産地から、姫路市場等の近隣市場へ輸送するための中継地点としてのニーズはあるのではないか。(運送会社)
- ・【青果】岡山は、農産物の生産量があること(≒比較的帰り荷が確保しやすいこと)や、九州～関西を東西に、山陰～四国を南北に繋ぐ結節点であることを踏まえると、中継拠点としての立地的な優位性はある。(運送会社)
- ・【青果】中継拠点は、安定的な入出荷が確保できる卸売市場と一体で整備することが望ましく、商流面で競争力があることが重要である。一方で、交通利便性が高いことも重要であり、一般論として、IC から 2 km 離れると遠いという印象を受ける。(運送会社)

2. 岡山市場と周辺卸売市場を繋ぐ広域物流網

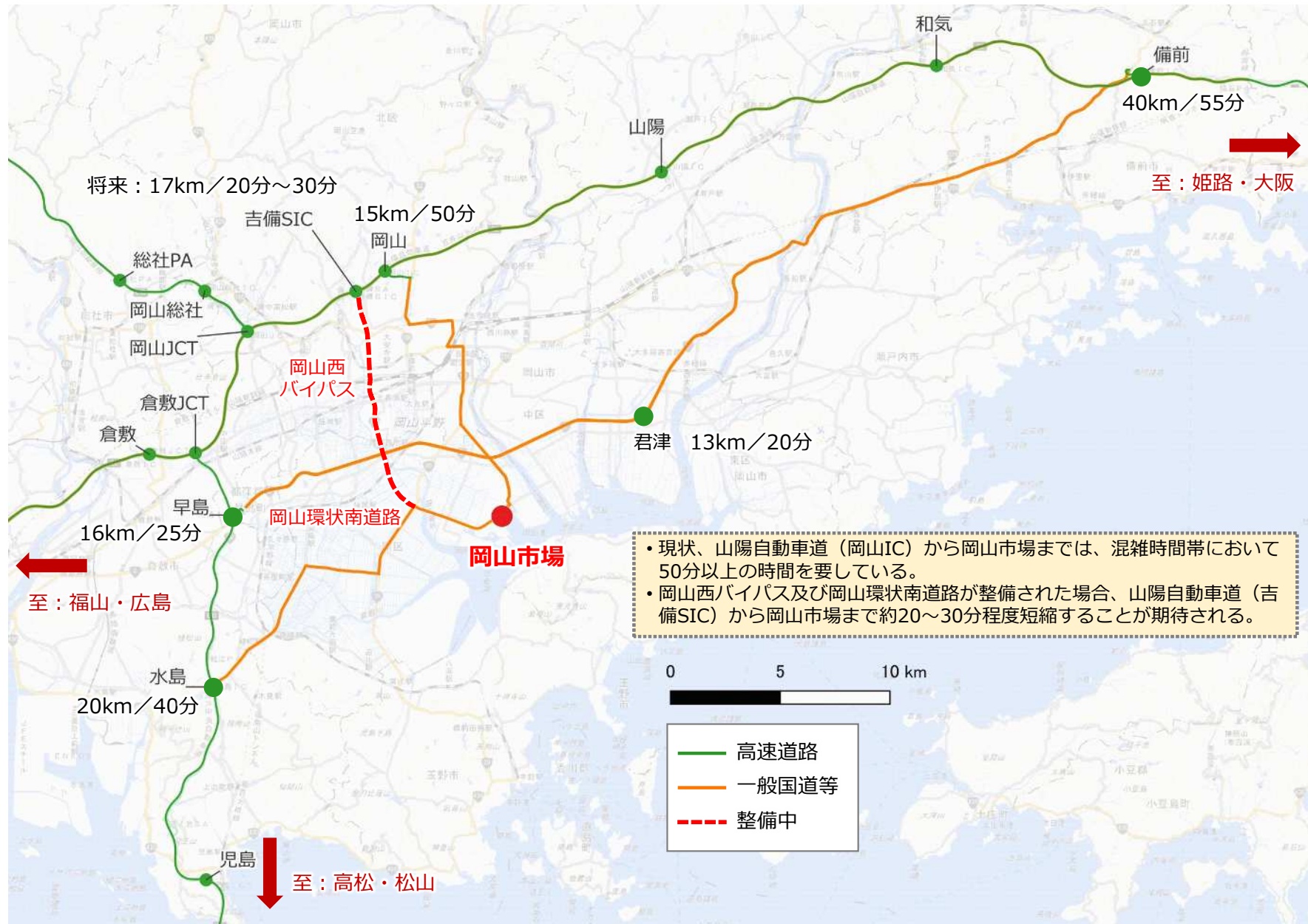
	発地	着地	一般道		高速自動車道等		
			Km	時間	Km	時間	IC
近畿	大阪	岡山	178	5:20	176	3:00	備前
	姫路	岡山	90	2:10	92	2:00	君津
中国	広島	岡山	170	4:30	172	2:50	早島
	福山	岡山	59	1:30	64	1:10	早島
	鳥取	岡山	135	2:50	135	2:30	君津
四国	高松	岡山	-	-	74	1:30	水島
	松山	岡山	194	5:00	182	3:10	早島
九州	福岡（青）	岡山	429	13:30	443	6:30	早島
	福岡（鮮）	岡山	433	14:30	443	6:30	早島

※一般道・高速自動車道等ともに
web上で経路検索を行い
距離・時間・最寄ICを計測



出所：国土地理院地図をもとに編集

3. 岡山市場周辺の道路状況と時間距離



出所：国土地理院地図をもとに編集